



①資料をめくりながら保護者と話を
するワーカー。電話はひっきり
なしにかかってくる
②「殺してしまえぞ」。母親か
らの相談内容を記した児童相談所
職員のメモ

「殺してしまえぞ」
母親からの相談内容を記した児童相談所
職員のメモ



児童相談所
いのち

「いまから来い！なぜ
来ていないの？」。受話器
から女性の大声が響く。
午後3時前、西日本にあ
る児童相談所（児相）。女
性ワーカー（児童福祉士）

子帰すため親と向き合う

面会に同行 電話で不安聞く

が担当する20代の母親から
だった。身体的虐待が疑わ
れたため半年ほど前に幼児
を保護し、その後、乳児院
に預けている。
親元に戻すことを目指
し、乳児院と協力して週1
回、1時間の親子面会を続
ける。この日はその面会日

だったが、女性ワーカーが
立ち合えなかったことに母
親が腹を立てたのだ。
「お母さん、すみませ
ん。今週は私は行かない週
だとお伝えしたと屋こので
すが」。そう説明しても納
得してもらえない。「私を
大事に思ってくれていない

」。女性ワーカーは20分
ほど耳を傾け、「来週お会
いできますからね」と電話
を切った。
この女性ワーカーは30代
で虐待の対応チームは4年
目。1人で約70件の事案を
担当する。家庭訪問や一時
保護した子どもとの面談な

の請求があり、267件が承
認された。10年前に比べ約
2倍に増えた。また、児相
が親権喪失や親権停止、管
理権喪失を家裁に請求した
ケースは14年度は22件。20
件が承認された。

親権を重く見て踏み込ん
だ対応をためらう児相も多
かったが、最近はその安全
を守るために、施設入
所に同意しない親たちに対
して積極的に法的措置をと
る児相が増えている。

2014年度は全国で350件・

親権と子どもの保護

一時保護した子どもを児
童養護施設や乳児院などに
入れるには親権をもつ保護
者の同意が必要。同意しな
い保護者も少なくなく、そ
の場合、児童相談所は児童
福祉法28条に基づいて家庭
裁判所に申し立て、認めら
れれば施設に入所させるこ
とができる。

ど、仕事は山積みだ。
午後4時50分、電話が鳴
った。さきほど話したほか
りの母親からだ。女性ワ
ーカーは不安や不満を聞き、
丁寧に言葉を返した。「お
母さん、がんばっていると
思います。すごいです。だ
から、少しずつ面会の時間
も増やしているんですよ」。
40分以上、話した。

その間、別の電話が何本
も入る。伝言メモがほかの
職員から次々に渡された。
「正直、しんどいお母さ
んです」。だが、この母親
自身も子どものころに虐待
を受けていた背景がある。
「話を聞いてほしい、受け
止めてほしいお母さんなん
ですよね」

自宅何度も訪問

子どもを保護した後の親
とのやりとりは苦労の連続
だ。
「しっかり勉強しろー」。
親に一流大学に進学するよ
う執拗に迫られ、参考書で
激しく頭をたたかれるなど
した私立高校生が、学校の
先生に助けを求めた。児相
は身体的・心理的虐待だと
判断し、高校生を一時保護
した。
担当のワーカーはチーム

3年目。夜に何度も自宅を
訪れ、保護者に改めてもら
おとしたが、聞き入れて
くれなかった。
「家には戻りたくない」。
高校生の意図ははっきりし
ていた。一途でなくても、
勉強して大学に進学したい
気持ちはある。

高校生を児童養護施設に
入れ、そこから学校に通わ
せる必要があると、ワカー
は考えた。施設への入所
について保護者に同意を求
めたが、応じてもらえな
かった。そこで、裁判所への
申し立てを考えていると伝
えた。裁判所が認めれば、
保護者の同意がなくても施
設に入所できる。

しかし、今度は「もう退
学だ。授業料の支払いを止
める」と言い出したとい
う。授業料が支払われない
と転校を迫られる。高校生
のことを考えると避けたい
選択だ。担当のワーカーは
言う。「学費が出なくなる
可能性があるなど、児相と
しては簡単には保護者との
関係を切れない」

子育て法を指導

この児相では、親を教育
し、子育てを支援するプロ
グラムにも力を入れる。

「保護者になってもらわ
ないと、子どもを家に帰す
ことができないですから」
とワーカーの一人は言う。

ある父親は月1回、仕事
帰りに児相に通う。数カ月
前に幼い息子を骨折させ
た。児相は息子を一時的に保
護したが、父親に反省が見
れたため、帰宅させた。

児相では、ワーカーと児
童心理士が父親に向き合
い、子どもが好ましくない
行動をしたときの親の対応
や、指示の出し方、ほめ方
などを具体的に教える。家
庭で実践した様子を報告し
てもらい、一緒に考える作
業を繰り返す。父親自身の
感情をコントロールする方
法を学んでもらうまでの計
5回の「講座」を続ける。

ただ、児相には子育て支
援プログラムを親に受けて
もらう強制力はない。親に
変わってもらふことの難し
さをワーカーたちは痛感し
ている。

ご意見は
メールasa
メ hi_forum
@asahi.co
mか、ファクス03・5541
・8259、〒104・8011（所
在地不要）朝日新聞オ
ピニオン編集部「小
さいのち」係へ。



見相の現場で

バシルのパスタを食べようとしたときだった。午後9時半すぎ、西日本にある児童相談所（児相）でいつものように残業をして帰宅した女性ワーカー（児童福祉士）の携帯電話が鳴った。遅い夕食とはいえ、夫と向かい合い、ほっとした時間を過ごそうとしていた。

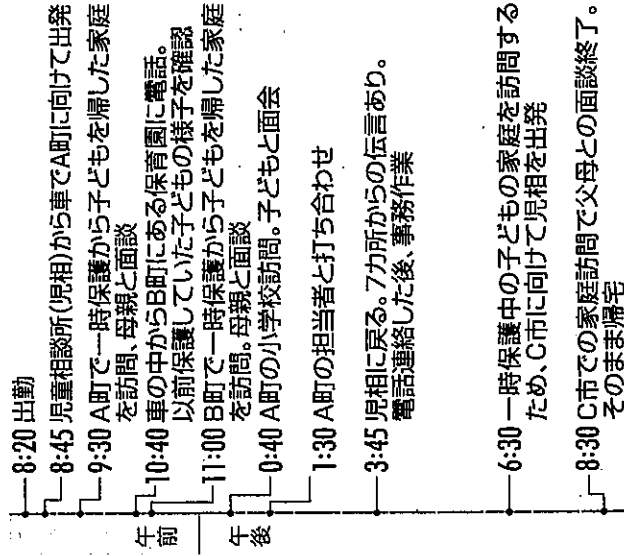
児相からの着信に胸騒ぎがした。この日の夜は、緊急事態が発生すれば、対応しなければならない当番にあたっていた。

病院から、虐待が疑われるとの通報があったという。小学生が脳振盪を起こして運ばれたので、病院に行きたくて確かめたいとの依頼だった。

女性ワーカーはすぐに自宅を飛び出した。車を運転

増える虐待 すり減る心身

帰宅後呼び出しや休日返上

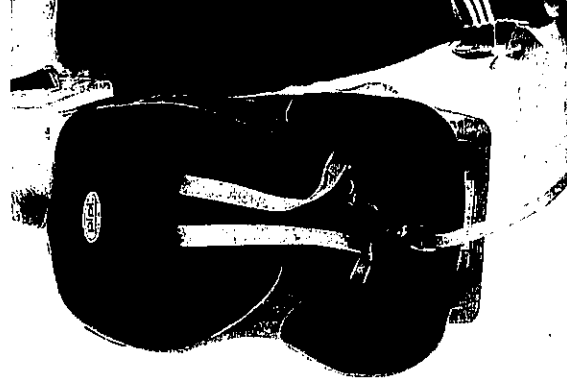


虐待対応チームのワーカーのある一日

して約1時間。ほかのワーカーと病院で落ち合い、父親から何が起きたのかを聞いた。「質問しても息子が何も答へなかった。小突いた後に押し倒し、足で踏んだ」と女性ワーカーに話したという。子どもは吐き気を訴え、そのまま入院した。

帰宅したのは午前9時す

ぎ。夫はすでに寝ていた。ひとりで冷めたパスタを食べ、床に就いた。翌朝は午前8時半に出勤。その後、入院した子どもの一時保護に向かった。虐待の対応チームに入ってから4年目の30代。大学を卒業後、別の仕事をしてきたが、子どもが虐待で亡くなるニュースを見て、「自分



子どもを乗せるためチャイルドシートを車に積み込むワーカー

が救う側に回りたい」と、この世界に飛び込んだ。だが、日々何が起きるか分からない緊張感と忙しさをくぐり抜けて、車で帰宅途中に未だ2人分の牛丼を購入したものの、眠気に襲われてハンドルを握れず、コンビニの駐車場で30分眠ってしまったこともある。

入院に付き添い

ワーカーの中には、自身の子どもの世話を実家に頼らざるを得ず、ほとんど家族がネグレクト（育児放棄）とぼやく女性もいる。

ある日の夕方、児相に連絡が入った。一時保護した3歳の男の子が1度の熱を出し、肺炎の疑いがあるという。児相職員の付き添いが必要になった。

男の子を担当する女性ワーカーが「私が泊まります」と声をあげた。「今日は帰れない」と夫にメールした。

チーム3年目。この夜は、別の子どもの親に家庭訪問して会うことになっていたが、キャンセルした。翌朝には、別のケースで今後の対応を関係機関と話し合

児童相談所で虐待や非行などの対応にあたる職員として地方自治体が任用する。ワーカーとも呼ばれる。児童福祉法で、社会福祉士などの資格や一定の実務経験などが要件として定められている。2015年度は全国で2934人おり、福祉などの専門職が全体の7割弱、残る3割強は一般行政職がついている。勤務年数は3年未満が4割

児童福祉司

超で、専門性の不足が指摘されている。人員不足も長年の課題だ。15年度に全国の児相が対応した虐待件数は10万件超と10年間で約3倍に増えたが、児相福祉司の人数は約1.5倍の増加にとどまる。厚生労働省は19年度末までに全国で550人増やす方針を示している。

重要な会議が控えている。病院に行く前に資料を作っておかなくてはならず、パソコンに向かった。その様子を見ていた同僚が声をかけた。「午後9時までは私が付き添いに行ってもいいよ」

「ありがとう」。女性ワーカーは急いで資料を作り、午後8時半に児相を出て、いったん帰宅。シャワーを浴びて午後9時から病院に入った。結局、その夜は2時間ほどしか眠れず、朝7時に別の職員と交代。そのまま児相に出勤、会議に出かけて行った。

入院した男の子は約1週間で快復し、退院の日を迎えた。その日は休日。担当の女性ワーカーは休みを返上して病院に迎えに行き、乳児院に連れて行った。

負担「もう限界」

この児相は、全国でも人

口比でワーカーの配置数が多い。それでも増える虐待の対応にとても忙しい。人材が育つのは6、7年かかるが、経験が3年以下のワーカーも少なくない。

児相の元所長はいう。「いまの児相は保護者への対応と子どもへの対応、関係機関との連携を一手に担わされていて、もう限界。貧困の連鎖を断ち切る方策も含めて、未来を背負う子どもたちに社会としてもっと人と金をかけるべきだ。子どもを守る」。その使命のため、児相ワーカーたちの心身を削りながら奮闘が続いている。

ご意見は
メール lalasa
hi_forum
@asahi.co
mか、ファクス 03・554
1・8259、〒104・8011
(所在地不要)朝日新聞
オピニオン編集部「小
さないのち」係へ。